

教員氏名：坂口 淳子（保育学科／准教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

幼稚園教諭2種免許状取得のための「幼稚園教育実習」と「幼稚園教育実習指導」の授業を担当している。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

理念形成に至った自身の背景や経験

私は小学校・幼稚園教諭での勤務を通して身をもって現場での教師の在り方を体験するとともに、その後、研修施設で、幼稚園教諭等の研修を企画・運営し幼稚園教諭等の資質の向上に努めてきた。その中で、人格形成の基礎を培う重要な時期である幼児期の育ちを支える人材の育成こそが幼児教育の充実・発展には必要であることを実感してきた。そして、幼稚園教諭としての資質・能力や実践力を身に付けた人材を一人でも多く輩出したいという思いから、学生が幼稚園教諭2種免許状を取得のため「幼稚園教育実習」をやり遂げられるように、「幼稚園教育実習指導」の指導の充実に努めている。

学生の学習に対する理念

幼稚園教育実習は学生にとっての初めての実習である。また、実習では、保育や子ども等についての体験を通しての実践的な知識・技能の修得だけでなく、社会人としての素養も求められる。そのため、保育者になりたい夢や希望、意欲をもってはいるものの「幼稚園教育実習」への不安や緊張は大きい。不安や緊張を和らげ、前向きな気持ちで幼稚園教育実習に向かっていけるように、「幼稚園教育実習指導」の授業等を通して、学生の準備をサポートしたいと考えている。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

具体的な教育上の実践

① 実習の心得や指導計画（案）記入の仕方などの説明が必要な内容はパワーポイントや書画カメラを使った「講義」、日誌や指導計画（案）を記入する場面では視聴覚教材を使った具体的な「演習」、教材研究や指導法を考える場面では学生同士考えを共有し学び合いが

できる「協議」を取り入れ、分かりやすく主体的に取り組める指導に努める。

② 学生が作成した自作教材について、自身の自信や今後に向けての意欲につなげたり、互いに見合うことで教材への関心を高め知識の幅を広げたりできるように、写真に撮ってclassroomにあげるなどして共有できるようにする。

② 具体的に保育現場や実習をイメージして学びを進められるように、視聴覚教材を活用したり、保育現場での保育実践や実習生を迎え入れた経験談を話したり、先輩の話を伝えたりする。

③ 書類や指導計画(案)については、学生の理解が深まり自信をもって作成できるように、参考にできる具体例を複数用意して配付する。そして、作成後にはどのように改善したらよいか分かるように添削を行い返却する。また、園の保育形態の実態により書き分けられるように、複数の指導計画(案)の書き方を提示する。

④ 授業を欠席する事で、実習に関する準備に穴が開いてしまうことが無いように、欠席者には授業中の配付資料を渡しなが、必要な補習を行う。

学生との関係構築のための工夫や配慮

① 学生の不安や緊張、指導計画(案)の内容や教材などについて、授業外でも相談にのりアドバイスする。相談しやすくなるように、そのための時間を設定する。

② 実習中は直接指導ができないので、参考にできるように実習の流れに沿ってすべきことを資料として配付する。また、メールでも送信する。実習中はメールや電話で相談を受ける。相談された場合は、一緒に考えながら自分の思いを大切に進めていけるようにアドバイスする。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

学生の実習成果

ある年度の幼稚園教育実習（責任）の実績を例に挙げたい。

① 幼稚園教育実習（責任）に関する相談は、実習前27件（内23件：指導案に関すること）、実習中13件（内7件：指導案に関すること）であった。アドバイスを受けることで学生は、納得したり参考にしたりしながら幼稚園教育実習を進め、やり遂げた。

② 実習希望者は141人であった。そのうち病気やけが等での不参加者、進路変更等によ

る実習辞退者を除くと、135人が最後まで幼稚園教育実習（責任）に臨んだ。実習完遂者の割合は実習希望者のうちの95.7%であった。

③ 実習先からの総合評価（A～Eの5段階評価）はA：30人（22.2%）、B：59人（43.7%）、C：42人（31.1%）、D：4人（3.0%）、E：0人であった。概ね、保育者になるのにふさわしい成果を上げていると考えられるが、D評価の学生には丁寧な事後指導を行った。

学生による授業への評価

① 課題の量についての評価が他と比べて低い。日誌や指導計画（案）の作成など、どうしても課題が多くなっている現状がある。課題を減らす、前向きに取り組めるよう課題に取り組む必要性を伝える、更に授業時間内での時間を確保する等、学修成果を維持しつつ、学生の負担が少なくなるように検討する必要があるだろう。

② 「指導案などの書き方を詳しく教わり、安心して実習に行けた」「実習に行く前の準備や実習中の留意点、終わってからの流れ等が細かく記載された資料やメールがあり、次に何をしたらよいか分かりやすかった」等の声があった。今後も実習での成果が上がるように、丁寧な資料作成を心掛け授業での知識・技能の修得ができるようにするとともに、実習の準備段階から終了まで学生が前向きに主体的に進めていけるようにサポートを行いたい。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

今後も、学生が幼稚園教育実習に自信をもって取り組み完遂できるように、指導やサポートを継続していきたい。

実習日誌における保育記録をとったり、指導計画（案）を作成したりすることは、幼児理解や教材研究、指導方法の改善など保育現場に入ってからでも保育者としての重要な資質能力となる。保育をする上で何故それをするのかその意味を理解することで、より主体的な学びにつながると思われる。それらの必要性や重要性を実感して取り組めるように授業の内容や進め方、伝え方を工夫していきたい。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

- 1 自作教材（シラバス、配付資料）
- 2 学生の成果物（指導計画（案）、学生の自作教材、提出物）
- 3 学生からのコメント（学生からのメール、相談）
- 4 F D 活動の記録やその成果（授業評価アンケート）
- 5 実習園からの評価票

（2025 年 9 月 18 日現在）